

2020核廃絶広島会議 参加報告

日 程 2010年7月27日(火)・28日(水)
会 場 広島国際会議場
主 催 平和市長会議・広島市

平和市長会議と広島市は、NPT(核不拡散条約)再検討会議後の核兵器廃絶に向けた次なるステップに

ついて協議する国際会議「2020核廃絶広島会議」を開催しました。

会議には、外務省、自治体85名、非政府組織・各種団体93名、政府機関・国際機関11名、海外自治体65名、海外非政府組織等団体20名など平和市長会議加盟都市をはじめNGOや各種団体から多くの参加がありました。7生協と4都県連が参加し、東京都生協連からは1名が、27日のレセプションと28日の会議に参加しました。



7月27日(火)18:00から歓迎レセプションが行なわれ秋葉広島市長の挨拶で開会しました。会議には多くのボランティアが通訳として参加していました。

また、28日・29日の会議の際には高校生ボランティアも参加し、会場案内などを行っていました。



主催者挨拶をする
秋葉広島市長

28日(水)9時から開会式が行なわれ、9時30分から被爆体験証言として



松島圭治郎さんのお話がありました。16歳の時に被爆された松

島さんは中学校の英語教師を務め、退職後、英語での証言活動に取り組んでいるとのこと。「核兵器廃絶の世論をつくるため、原子爆弾の恐ろしさを伝え一人でも多くの人に知ってもらいたい。亡くなった人の声なき声を伝えるのが生き残った自分の使命」と話された松島さんの言葉は、世界各地から集まった参加者の心を強く打つものでした。

10時から10時40分まで、中堅国家構想名誉議長(元カナダ上院議員・元軍縮大使)のダグラス・ロウチさんが基調講演「今こそ核兵器禁止条約を」がありました。「今歴史的機運が高まっている。核兵器廃絶は国際的なコンセプトとなっている。そのことを大国も含む核兵器保有国も無視できなくなっている。世界中に広がった平和市長会議の加盟都市が国に訴える。大国の国民の意見が大国を変えていく。NPTはビジョンではなく進行中の取り組み。NPTには限界があり、包括的な条約ができることによりテロ防止、軍縮にもつながる。」というお話があり、核兵器の全廃と根絶を目的として起草された国際条約案である。モデル核兵器禁止条約と言われている2007年にコスタリカ・マレーシア両政府の共同提案として正式に国連に提出された、「核兵器の開発、実験、製造、備蓄、



移譲、使用及び威嚇としての使用の禁止ならびにその廃絶に関する条約案」について話されました。

講演後、ダグラス・ロウチさんが広島市特別名誉市民として表彰されました。ロウチさんは被爆者の松下さんを傍らに呼ばれ、「自身も8月6日、16歳で、学校で学んでいた。同じ81際になり、こうやって広島にいる。私たちは兄弟です」と、肩を組み、感慨深げな面持ちの二人に大きな拍手が贈られました。



梅林さん(右)とアーロン・トビッシュさん

11時から、会議Ⅰ「NPT再検討会議の結果を踏まえた今後の活動のあり方 一核兵器廃絶への次のステップ」が開催されました。コーディネーターをピースデポ特別顧問の梅林さん、コメンテーターを2020キャンペーン事務局国際ディレクターのアーロン・トビッシュさんにより進められました。スピーカーとして政府機関、平和市長会議加盟都市、NGO、参加団体から8名が核兵器廃絶に向けた様々な意見や提案が出されました。

田上富久長崎市長は、「核兵器を持ってしまった人類は、今、核兵器廃絶への新しいステップのために、新しい知恵が求められている。コスタリカ・マレーシア両政府の共同提案したモデル核兵器禁止条約を進めていくべき」とのお話がありました。

広島県生協連の岡村専務は、被爆者・市民・NGOの力の結集、知り・知らせる活動を進めていくこと、平和教育の充実などの必要性について話されました。



田上長崎市長



広島県連岡村専務

外務省軍備管理軍縮課長の鈴木氏は、今後の日本政府の取り組みとして、核軍縮決議案を提案、CTBT批准を求めていくこと、カットオフ条約：FMCT（兵器用核分裂性物質生産禁止条約）の交渉開始を働きかけていくことなどが話されました。

—東京都生協連は以上で退席しました—

午後からは会議Ⅱ「世界的な展開に向けて一国、都市、NGOの連携及び平和市長会議の役割」
市民対話集会「核兵器廃絶に向け、私たち市民は何をすべきか」

* 広島県連岡村専務が報告

29日(木)、会議Ⅲ「2020までの核兵器廃絶に向けて」が行なわれ、ヒロシマアピールが発表され終了しました。



会議室前のロビーには各団体の展示がされていました。

福田康夫元首相のお嬢さんが作った折鶴とのことです。

